昭和34年4月15日発行　才139号　毎月三回（5日・15日・25日）発行　昭和32年5月27日才三種郵便物認可

とかち新聞
主筆　松山明
（発行所）　北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社

棄権は危険！主権者の恥です！
——投票日には万難を排して洩れなく——
23日｛道知事　道議会議員　30日｛町長　町議会議員
——四年に一度の権利を行使しましょう——

終盤戰に入つた道議選

″岡崎を勝たせよう″

本別・足寄・陸別の情勢

二十三日の投票日を目前にひかえて、五議席をめぐつて八名の立起者が終盤へのたたかいの駒をすすめている十勝管内の道議選——とりわけ本別・足寄・陸別の情勢はどうか。三町を基盤に立起しているのは岡崎光三候補ただ一人なので、三町での合計得票は何といつても岡崎氏が一番多いものとみられているが、朝日昇候補（浦幌町）と渡部勇雄候補（池田町）の進出が目立つており、この両氏の喰い込みが大きければ岡崎氏の基礎票に狂いが生ずるわけだが、終盤戦に入るとともに、『遠い親戚よりも近くの他人』ということで、各町村ともに″地元は地元の候補に″とブロック態勢をとつているのだから、「三町は三町で地元の『岡崎を勝たせよう』という声がたかまつてきつつある

○…この三町の道議選への動きをふり返つてみると、前回に惜敗した本別町の水元孝夫氏か昨春いち早く立起を決意して社会党入党問題を引きおこしたのは周知のとおりだが最終的には同氏の健康が思わしくなく断念することになつた。

○…自民党の方では本別支部長の岡崎克雄氏と足寄支部長の岡崎光三氏と陸別支部長の菊地寅蔵氏とをそれぞれ道議候補に推薦決定していたが、昨秋になつて三町の保守派が結束して票田の大きい地理的にも中央の足寄の岡崎光三氏一人にしぼつて必勝を期すことにしたものだつた。

○…三町の革新派の動きはマチ〳〵で、社会党や地区労あたりは大体において現役の渡部氏に傾いているものの農民同盟は農民代表をという線で、朝日派や林秀憲派があるかと思えば、地元から立つのだから岡崎氏をといつた形で、戦線は統一されていない。

○…足寄町の場合は、党派を超えて地元から道議をおくり出そうというスローガンで政治力結集の動きが活潑となつて昨年十一月に岡崎氏擁立の挙町一致に近い態勢が打ち出されたものだつたが、当の岡崎氏は自民党支部だけでやるべき仕事ではないからとして立起に乗気でなかつたが、足寄町農協、西足寄農協、開拓農協、共済組合、土地改良区などの農業五団体から商工会、町議会有志、元老層、青壮年層、婦人層など町内をあげての出馬要請にもとづいて起ちあがつたもので昨年いらいの政治力結集の動きというものは自民党支部よりも党員以外の人々が推進力となつてきたのでもわかるとおり、町内の保守層といわず革新層といわず町はじまつていらいの熱の入れようで、ことがすすめられてきたようなものである。

○…だから社会党支部や地区労あたりでは積極的に攻勢に出ることは避けているようだし、農民同盟の選対でも上部機関の推薦候補を押しつけることはせずに、道議選については農民の自由意志に任せることにしているわけだ。

○…こうした経過と現状からいつて岡崎氏の立起は自然のなりゆきによつたもので、この機会を逃してはここ当分足寄から道議を出すことはできないだろうという素朴な願いを背景にしてかつてない住民のもりあがつた勢いでたたかわれているのだが、果して首尾よくゴール、インすることができるかどうか、地元三町の終盤戦への情勢を打診してみる。

当選圏内への票読み

当落を左右するのは本別？

○…さて、かんじんのお膝元の足寄の得票見込みはどうかというと、一万を超える大票田だが、何しろ日本一の広面積だけに僻遠の地域が多く、悪路も手伝つて従来ともに棄権率の高いところで、これが一番の悩みで地元候補にとつては何といつても棄権者が多くては痛手となるが、ことしの場合は特別なので投票率は八割以上にあがるのではないかというのが町選管委の期待で、八割とすれば八千票となるが、いくら挙町一致で地元候補といつても他町村の例をみても有効投票の八割内外が精一杯とみられているので、足寄での得票は六千票前後というのが常識的な見方ということになる。

○…本別の場合は隣町のよしみで岡崎候補への支持票もかなりあるとしても、朝日、渡部両候補に流れる票も大きく、さらに町長選に岡崎克雄氏が名乗りをあげているためのマイナスもあればプラスもあり、岡崎候補は「町長はその町の住民の意志によつて選ばれるものだからタッチすべきものでない」と割切つているのだが、抱き合せと誤解している向もあるようだ。

○…そういう点から、本別からは二千五百票～三千票の得票を期待しているものの、果して二千五百票を越すかそれ以下となるかで大きな狂いを生ずることになるが、前回には足寄から本別の水元、川人両候補に約三千票の協力をしていることからしても、この際相当の期待をもつことは当然で岡崎候補の当落を左右するのはむしろ本別の得票ではないかともみられているようだ。

○…陸別はさらに隣町のよしみは深く、菊地寅蔵氏をはじめ商工業者や農民層、一般町民も協力的で、千五百票から二千票の得票はそう狂いはないものとみられている。

○…こうみてくると、三町合せての得票は、すくなくても九千票から一万票はあるものと見込んでもそう冒険的ではないとみられるので、三町以外からの散票二千から三千を加えてどうにか当選圏内に入りこめるのではないかというのが、終盤戦への希望的な観測となつているようだ。

三町の結束によつて

道議を出す習慣をつけよう

○…岡崎候補が告示後才一声を足寄駅頭であげたとき町長の川上貞通氏も議長の高橋安蔵氏もともに街頭に立つて町民に訴えたものである。「町の発展は政治力にまたねばならない、地元から道議をおくり出すことによつて三町の発展がある」と強調していた。陸別の工藤町長も「自治体の行政力には限界があり、大きな事業をなしとげるには政治力がともなわなければならない、陸別町の総合開発計画が全道で只一カ所の指定をうけたのも地元政治家の力によつたものである」と語つており、本別町の町長選候補予定者四人とも異句同音に地元の実情に明るい政治家のバック、アップなくして町政の推進はあり得ないと述べているが、三町の有権者が結束しさえすれば足寄から出ようが、本別から立とうが、陸別から名乗りをあげようが、ものにできる道議会の議席を、この際獲得する習慣をつけるべきだという意見が、党派を超えて有識者の間からもりあがつているようだ。

○…これまでの三町の間柄というものは、どちらかといえば「高校」の問題にしても「集酪」の問題にしても競り合いという格好でシツクリゆかない面もあつたが、現在三町が当面している懸案の問題は、それぞれの立地条件と客観状勢から生れてきたもので、三町が競り合うというよりもともに協力提携し合つてゆくべきことがらのようであり、むしろ三町の政治力を結集していつてこそ問題解決を早めるのではないかと思われる。

○…三町の問題については三町のなかから出ている政治家の方が頼むにしても頼まれるにしても都合のいいことは当然で、三町から只一人の立起者であることから、何とか「岡崎を勝たせよう「という声が終盤戦につれてたかまりつゝあるようだ。

社説

地元に道議はなぜ必要なのか

本紙はこの欄で数年前から本別、足寄、陸別の三町を母体として道議をおくり出すべきであり、できるならこの三町の中心地足寄町から候補者を出すべきであると主張してきたが、そのせいであるかないかは別として、とにもかくにも三町を母体としてこのたびの道議選にあたつて地元候補が立起して逐鹿戦場に歩をすすめ、いまや最後の追い込み戦に入つているとき、足寄から道議を出すべきであると主張してきた本紙としてはだまつているわけにはゆかないのである。

(一)

道議は道政全般にタッチするもので、どの市町村から立起しようが、全道的な立場でことにあたつてもらうべきで、出身地の利害だけにこだわる地域代表であつてはならないが、特にこの三町から敢えて道議をおくり出さねばならない理由はどこにあるのだろうか。

(二)

才一には、この三町さえ結束すれば道議は出し得るということで、出し得る票田のあるところから出すのは当然であるし、出せなかつたらおかしなものであり、三町で只一人が立つているのに知らん顔をすることはできないのである。才二には、自民党であろうが社会党であろうが、地元から出る人でなければ本気になつて地元のことをやつて貰うことはできないのであり、道や市町の村自治体政治は政党本位で物事を処理することはできず、地域のことは地域の実情に明るい地元の議員でなければならないのである。才三には、本別足寄、陸別という将来性のある懸案事項の多い町には何といつても政治力が必要であり、中央に向つての発言力を強めなければならないのである。

(三)

しかし地元から立起するといつても住民のヒンシユクを買つている人とか、全然当選の見込みのない泡沫候補ならイザしらず、相当程度に住民の与望を担い基礎票も見込まれる候補者である場合は支持政党の違いや人物に好き嫌いの点があつても、地元のためにという最大公約数で、これを克服して割切つてゆけないものであろうか。何のかんのといわれても地元に政治家をもつ地域は得をしており、遺憾ながらこれが偽らざる現実の政治というものなのである。

(四)

地元オンリーでいいというわけではないが、全道的な視野に立つても、この開発の手が遅れている地帯を何とかせねばならない筈であり、道議戦の運動がストップしているほどの悪路、くり返される冷害凶作、不完全な教育施設、それらのいづれをとつてみても町の力だけで解決されるものではなく、道の力、国の力にまたなければならず、そのたにはこの三町からせめて道議くらいは出したいものだ

☆足寄町　二十二日午後五時開場　足寄劇場
☆陸別町二十五日午後一時半開場　陸別小学校
☆本別町二十六日午前十一時開場　本別小学校

とかち新聞社主催
——司会　松山　明——

町長町議候補者合同演説会

一、各会場とも満員お断りの事態が予想されますのであらかじめ御諒承下さい。
二、陸別、本別の会場は学校屋体ですので履物を包む風呂敷、新聞紙などを御持参下さい。
三、各会場とも開場と同時に各候補者の発言順を抽せんによつて決定いたします。定刻までにお出でにならない候補者は参加できません。抽せんは代人でも結構ですが、発言は本人に限ります。
四、開場と同時に抽せんをおこない、抽せんが終れば直ちに開会いたします
五、町長候補者は三十分以内、町議候補者は十分以内の予定で政策、抱負を述べて頂きます。
六、選挙運動期間中ですので慎重、公平を期したいと思いますので、演説妨害などの事態のおきないよう参会者は司会者の指示に従つて頂きます。

オートバイのデパート！
……営業各車……
メーハツ号・メグロ号
ヤマハ号・コレダ号
アサヒ号・陸王号
トーハツ号・ＤＳＫ号
——その外取次車各種——
外モーペット各種サービス品付特売中
お徳な中古車　50cc～250ccまで、十数台各種取揃えて皆様の御来店をお待ちいたしております。
足寄町駅通り
渡辺モータース
渡辺　安
Ｔ149番

美味しくて安い！
お徳用なマルヤスの味噌醤油！
㊅
高橋味噌醤油醸造元
高橋安蔵
足寄町　Ｔ一七八

北海道の名所
新館増築（五月に完成）——泉温四十三度——
旧館は湯治客専用に開放！
一泊素泊り百八十円で奉仕（収容八十名）
日本ユースホステル指定
足寄町茂足寄
帯広・足寄よりバスの便あり
国民宿舎指定申請中
北海道立衛生研究所分析
野中温泉
大正二年創業
野中正造
浴用（リウマチ・神経痛・婦人病・皮膚病・糖尿病）
飲用（痔疾・便秘・糖尿病一切）